

3.1.2 植物相

植物は、標高や土壌条件などによって生育している種類が変わります。そこで、植物相⁽¹⁸⁾調査では、市内の低地から箱根稜線付近にかけての広い範囲で、野山や水辺、耕作地などを歩いて、生育する植物の種類を調べました。種類を見分ける際には花や実が区別点の一つになりますが、花が咲いたり実がなる時期は種類によって違うので、春から秋にかけて調査を行いました。

その結果、158科962種の植物が見つかりました。植物の分類ごとの種類数は、表3-1-2のとおりです。なお、見つかった種類の一覧は、資料編の確認種目録にとりまとめました。

表 3-1-2 植物分類群別内訳

分類群		科数	種数	確認種例	
シダ植物門		20	100	ベニシダ、イノデ、ウラジロ	
種子植物門	裸子植物亜門		8	14	スギ、ヒノキ、アカマツ
	被子植物亜門	双子葉植物綱	78	424	スダジイ、ノイバラ、カンアオイ
		合弁花亜綱	32	215	エゴノキ、ニシキウツギ、ノコンギク
	単子葉植物綱		20	209	アズマネザサ、ヒガンバナ、キンラン
合計		158	962		

注) 植物の種名などは、主に「自然環境保全基礎調査 植物目録(環境庁,1987)」に従いました。

一般的に中部地方の太平洋側では、海岸部からおよそ標高 700～800m 付近まではシイやカシなど常緑広葉樹が優占する照葉樹林帯、それ以上 1600m 付近までは落葉広葉樹が優占する夏緑樹林帯⁽⁸⁾にそれぞれ含まれます。三島市は標高 5m から 941.5m にあるので、平野部から山地中腹の大部分が照葉樹林帯に属し、山地上部が夏緑樹林帯⁽⁸⁾に属していることとなります。今回の調査で確認された植物のうち、それぞれの樹林帯を代表する植物は表 3-1-3 のとおりです。

また、今回確認された植物の中には、本来日本には生育しておらず、人の手などにより国内に持ち込まれ野生化した植物が含まれています。これらは帰化植物とよばれています。セイタカアワダチソウ、カモガヤなどのように花粉症の原因になったり、アレチウリ、イチビ、シヨクヨウガヤツリなどのように農作地に侵入し繁茂するなど、問題となることも多いようです。今回の調査では、帰化植物は 50 科 133 種が確認されました。

表 3-1-3 照葉樹林帯と夏緑樹林帯の代表的な植物

樹林帯	形態		代表的な植物
照葉樹林帯	木本 (もくほん)	高木	スダジイ、アラカシ、タブノキ、クスノキ、ヤブニッケイ、カゴノキ、シロダモ、イヌガシ、ヤマモモ、イヌマキ
		小高木～ 低木	サカキ、ヒメユズリハ、タイミンタチバナ、カクレミノ、ヤブツバキ、モッコク、モチノキ、リンボク、ナワシログミ、ネズミモチ、シャシャンボ、アオキ、ヤツデ、センリョウ、イズセンリョウ、マンリョウ、ヤブコウジ、ナンテン、アリドオシ
	草本 (そうほん)	シダ植物	キジノオシダ、ウチワゴケ、フモトシダ、イワガネゼンマイ、アマクサシダ、コモチシダ、カナワラビ類、ヤブソテツ類、ベニシダ類、イタチシダ類、イノデ類、ホシダ、ゲジゲジシダ、ミゾシダ、イヌワラビ類、シケシダ類、ヘラシダ、マメツタ、ヒトツバ
		種子植物	フユイチゴ、カンアオイ、ウラシマソウ、ハナミョウガ、キチジョウソウ、ヤブラン、ジャノヒゲ、オモト、カンスゲ、コ克蘭
	つる		ムベ、サネカズラ、フウトウカズラ、テイカカズラ、ホウライカズラ、キツタ、ツルグミ、イタビカズラ
夏緑樹林帯	木本 (もくほん)	高木	ブナ、ミズナラ、バッコヤナギ、フサザクラ、ヒメシャラ、カジカエデ、ウリハダカエデ
		小高木～ 低木	シモツケ、サンショウバラ、マメザクラ、ズミ、ツルシキミ、サラサドウダン、タンナサワフタギ、ヤブデマリ
	草本 (そうほん)	シダ植物	ハコネシケチシダ、ハクモウイノデ、クサソテツ
		種子植物	ハルトラノオ、ヤマオダマキ、トウゴクサバノオ、シモツケソウ、カントウミヤマカタバミ、イヌヤマハッカ、ナツノタムラソウ、シオガマグク、ヒナノウスツボ、ヤマハハコ、マルバダケブキ、バイケイソウ、カリヤスモドキ、イトスゲ、イチヨウラン
	つる		サルナシ、イワガラミ、ツタウルシ

注) 植物の種名は、主に「自然環境保全基礎調査 植物目録(環境庁,1987)」に従いました。

3.1.3 貴重な植物・群落・植物個体

今回の調査では、貴重な植物の生育の有無や、天然記念物などに指定されている林や樹木などについても調べました。

(1) 貴重な植物

絶滅のおそれがあるとして、環境庁(現環境省)発行のレッドデータブックに掲載されている植物6科8種が確認されました。

表 3-1-4 植物貴重種基準

資料名	発行元	発行年	概要
改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 (維管束植物)	環境庁	2000	絶滅のおそれのある野生生物の個々の種の生息状況をまとめた資料。 絶滅のおそれの程度等によって、「絶滅(EX)」、「野生絶滅(EW)」、「絶滅危惧 類(A類・B類:CR・EN)」、「絶滅危惧 類(VU)」、「準絶滅危惧(NT)」、「情報不足(DO)」の6ランクと、「絶滅のおそれのある地域個体群」に分けられている。

表 3-1-5 貴重種一覧

科名	種名	選定内容	減少している原因	確認状況等
ウマノスズクサ	オトメアオイ	VU	森林の伐採 植生の遷移 土地造成等	・広葉樹林、植林下や林縁などの5ヶ所で多くの個体が確認された。開花も見られ、生育状況はいずれも良好であった。 ・山地部の樹林下には、多くの個体が生育しているものと思われる。
バラ	サンショウバラ	VU	植生の遷移 森林の伐採等	・落葉広葉樹林下や道路脇などの4ヶ所で計10個体が確認された。どの個体も生育状況は概ね良好であった。 ・生育している場所は稜線部付近に限られ、個体数もそれ程多くないものと思われる。
グミ	ハコネグミ	VU	植生の遷移 森林の伐採等	・林縁などの4ヶ所で計4個体が確認された。生育は概ね良好だが、林縁に生育している個体は他の植物に披圧されている個体も見られた。 ・生育している場所は稜線に近い高標高地に限られる。
ゴマノハグサ	カワジシャ	NT	-	・流水中や水田などの6ヶ所で多くの個体が確認された。 ・市内の水路や水田などには、まだ多くの個体が生育しているものと思われる。
ミクリ	ミクリ属の一種	NT	-	・1ヶ所の水路に多くの個体が生育しているのが確認された。 ・沈水葉 ⁽¹⁹⁾ からミクリ属の一種と思われるが、水路の中に生育し開花しないため、種の同定は不可能であった。過去の確認記録や生育場所からミクリかナガエミクリと推測される。 ・市内を流れるそれ程汚れていない水路には、生育している可能性がある。
ラン	エビネ	VU	園芸用の採集 森林の伐採 土地造成等	・ヒノキ植林下で2個体が確認された。 ・本調査で1ヶ所のみ確認であったが、植林地や広葉樹林下には、まだ多くの個体が生育しているものと思われる。
	キンラン	VU	園芸用の採集 森林の伐採 土地造成等	・雑木林下など6ヶ所で計十数個体が確認された。どの個体も生育状況は良好であった。 ・市内のコナラ林などの落葉広葉樹林下には、まだ多くの個体が生育しているものと思われる。
	クロヤツシロラン	EN	森林の伐採 土地造成等	・竹林下の2ヶ所でまばらに生育しているのが確認された。 ・ある程度林床があいた竹林には、生育の可能性があると思われる。

注) 植物の種名は、主に「自然環境保全基礎調査 植物目録(環境庁,1987)」に従いました。

オトメアオイ(ウマノスズクサ科)



山地林下に生育する常緑多年草⁽²⁰⁾で、5~7月に根元に花をつけます。静岡県、神奈川県に分布するフォッサマグナ要素⁽²¹⁾の植物です。分布を拡げるのが遅く、1万年で1kmしか前進できないともいわれています。

【撮影：2002/11/11】

サンショウバラ(バラ科)



山地の落葉樹林の林内や林縁に生育する落葉広葉樹です。高さ4~5mに達し、枝には平らなとげがあります。6月に枝先に径5cmの大きな淡紅色の花をつけます。静岡、神奈川、山梨に分布するフォッサマグナ要素⁽²¹⁾の植物です。和名は「葉がミカン科のサンショウに似たバラ」に由来します。

【撮影：2002/7/16】

ハコネグミ(グミ科)



山地に生育する落葉広葉樹で、高さ2~4mに達します。5~6月に花が咲き、その後、赤い実がなります。静岡県、神奈川県、山梨県に分布するフォッサマグナ要素⁽²¹⁾の植物です。

【撮影：2002/7/16】

カワジシャ(ゴマノハグサ科)



水田、川岸、あぜなどの多湿な場所に生育する一年草⁽¹⁶⁾です。水田を耕す前には目立ちますが、その後は水田の雑草にはなりません。5~6月に多くの白い花をつけます。種子は秋に発芽し、根元で枝分かれして越冬します。本州、四国、九州、南西諸島に分布します。

【撮影：2002/5/14】

ミクリ属の一種 (ミクリ科)



池や水路など、浅い水中に群生する多年草⁽²⁰⁾です。水底の泥の中に走出枝⁽²²⁾を伸ばして新しい株をつくり増殖します。花は6~9月に咲きます。和名は実が集まってクリのいごのような球形になることに由来します。北海道から九州に分布します。ミクリ属には、ミクリ、ナガエミクリ、ヤマトミクリなど何種類があります。

【撮影：2002/5/14】

エビネ(ラン科)



丘陵から山地の湿潤な落葉樹林などに生育する多年草⁽²⁰⁾です。4~5月に8~15個の花をつけます。江戸時代の中頃から栽培されていました。和名は地下茎⁽²³⁾をエビに見立てたものといわれています。北海道南西部から南西諸島に分布します。

【撮影：2002/11/11】

キンラン(ラン科)



山や丘陵地の疎林下に生育する多年草⁽²⁰⁾です。群生することなく1~2株まばらに生えます。花期は4~6月で、茎の先に3~10個の黄色い花をつけます。和名は黄色いランの意です。本州から九州に分布します。

【撮影：2002/5/15】

クロヤツシロラン(ラン科)



常緑広葉樹林、スギ林、モウソウチク林などに生育する葉緑体がない腐生ラン⁽²⁴⁾です。9~10月、地表に近い場所に目立たない花をつけますが、花が終わると花柄⁽²⁵⁾が急速に伸びます。

【撮影：2002/11/14】

なお、過去には表 3-1-6 に示す貴重な植物が三島市内に生育していたようですが、今回の調査では確認されませんでした。減少している理由は、生育に適した環境の減少(植生⁽⁸⁾の遷移⁽²⁶⁾・開発行為・水質の悪化など)・園芸用の採集・帰化植物との競合などです。

これらの植物の多くは、もう三島市では見られないかもしれません。

表 3-1-6 現地調査未確認の植物貴重種一覧

科名	種名	選定基準	減少の理由
マツバラン	マツバラン	絶滅危惧 類	園芸用の採集,植生の遷移,森林伐採
ミズニラ	ミズニラ	絶滅危惧 類	池沼の開発,土地造成
サンショウモ	サンショウモ	絶滅危惧 類	農薬汚染,土地造成,池沼の開発
アカウキクサ	オオアカウキクサ	絶滅危惧 類	農薬汚染,土地造成,水質汚濁
キンボウゲ	オキナグサ	絶滅危惧 類	園芸用の採集,植生の遷移,草地の開発
ポタン	ヤマシャクヤク	絶滅危惧 類	園芸用の採集,森林伐採,林道工事
トウダイグサ	ノウルシ	絶滅危惧 類	土地造成,湿地の開発,植生の遷移
セリ	ミシマサイコ	絶滅危惧 類	植生の遷移,草地の開発,薬用の採集
サクラソウ	ノジトラノオ	絶滅危惧 IB 類	土地造成,道路工事,湿地の開発
シソ	カイジンドウ	絶滅危惧 IB 類	植生の遷移,草地の開発,道路工事
	キセワタ	絶滅危惧 類	植生の遷移,道路工事,法面の草刈り,森林の伐採
	ヤマジソ	絶滅危惧 類	植生の遷移,草地の開発,土地造成
	ミゾコウジュ	準絶滅危惧	不明
ナス	アオホオズキ	絶滅危惧 類	森林伐採,道路工事,植生の遷移
ゴマノハグサ	イズコゴメグサ	絶滅危惧 IB 類	植生の遷移,草地の開発,土地造成
	イヌノフグリ	絶滅危惧 類	帰化植物との競合,植生の遷移,道路工事
タヌキモ	ムラサキミミカキグサ	絶滅危惧 類	湿地の開発,植生の遷移,湿地の踏みつけ
キキョウ	キキョウ	絶滅危惧 類	園芸用の採集,植生の遷移,草地の開発
キク	カワラノギク	絶滅危惧 IB 類	河川開発
	イズハハコ	絶滅危惧 類	道路工事,植生の遷移,土地造成
	ヒメヒゴタイ	絶滅危惧 類	草地の開発,植生の遷移,道路工事
オモダカ	アギナシ	準絶滅危惧	不明
トチカガミ	スプタ	絶滅危惧	池沼の開発,農薬汚染,土地造成
ユリ	ヒメユリ	絶滅危惧 IB 類	園芸用の採集,植生の遷移,草地の開発
イネ	ミズタカモジグサ	絶滅危惧 類	土地造成
ウキクサ	ヒンジモ	絶滅危惧 IB 類	水質汚濁,池沼の開発,土地造成
カヤツリグサ	イトテンツキ	絶滅危惧 類	草地の開発,植生の遷移,土地造成
ラン	マヤラン	絶滅危惧 IB 類	森林伐採,園芸用の採集
	クマガイソウ	絶滅危惧 類	園芸用の採集,森林伐採,土地造成
	フウラン	絶滅危惧 類	園芸用の採集,森林伐採,道路工事

サンショウモ(サンショウモ科)



低地の水田や湖沼に群生するシダ植物です。各節に2枚づつ並んだ葉の形がサンショウの葉に似ていることから、この名が付けられました。5月頃、胞子が発芽し、夏から秋にかけて大繁殖します。繁殖力は強いのですが、近年は除草剤などの影響により減少してきています。

【写真：角野康郎氏提供】

オキナグサ(キンポウゲ科)



ススキ草原やシバ草原に生育する高さ10cm程の多年草⁽²⁰⁾です。白い毛をつけた果実が茎の先に集まっている様子を白髪の翁にたとえ、この名が付けられました。4~5月には、暗赤紫色の花を咲かせます。箱根山麓に見られたようですが、園芸用の採取、植生⁽⁸⁾の遷移⁽²⁶⁾などにより減少しました。

【写真：菅原久夫氏提供】

ミシマサイコ(セリ科)



草原に生える高さ40~50cmのすりりとした多年草⁽²⁰⁾です。8~10月頃、茎の先に黄色の小さな花を咲かせます。根を乾燥させたものは、解毒、解熱、鎮痛などの効果があり、栽培もされていました。三島から産出したことから、この名が付けられています。植生⁽⁸⁾の遷移⁽²⁶⁾や開発、薬用の採取などにより減少しました。

【写真出典：佐竹他(1982)日本の野生植物】

イヌノフグリ(ゴマノハグサ科)



土手や道端などに生える高さ10cm程の二年草⁽²⁷⁾です。3~4月頃、茎の上部に淡紅白色の花を咲かせます。果実の形から、この名が付けられました。昔はよく見られたようですが、同じ仲間でのオオイヌノフグリなどが入ってきてから少なくなりました。

【写真出典：佐竹他(1982)日本の野生植物】